

臨床医学概論

授業概要

人体を対象とする経験科学たる臨床医学の基本理念、方法論について教授するとともに、臨床研究を進めるに際しての科学的方法論の原理を理解させる。本科目は臨床医学に関係した研究を始める修士課程の学生が知るべき臨床医学の現状についてその概略を解説することを目的としている。

担当教員

木下芳一（主担当）	教授・内科学第二
杉本利嗣	教授・内科学第一
田邊一明	教授・内科学第四
山口清次	教授・小児科学
織田禎二	教授・循環器・呼吸器外科学
秋山恭彦	教授・脳神経外科学
齊藤洋司	教授・麻酔科学
佐倉伸一	准教授・手術部

授業の形式

講義、セミナーの形を取り 教員各員のオムニバス形式を基本とする。

教育内容

1. 発生成育過程にある個体（胎児、新生児、小児）の特性と臨床医学研究の基本的な考え方、研究の方法論を理解させる。
2. 医学における症候論、臨床検査の立案と意義、検査結果の解析法から診断に至る道筋を学ぶことにより、臨床医学の診断学の考え方を学ばせる。
3. 臨床医学で用いられる形態診断法、機能診断法の役割とその基本概念を学ぶ。
4. 臨床の現場での生活習慣病、癌の診療の現状と問題点を解説し、その解決のために必要な研究内容を討論する。

成績評価の方法

講義などの出席とレポートなどを総合評価して行う。

使用テキスト・参考文献

参考図書として カルテの余白 近藤俊文 岩波書店。